

## 厳愛の指導（2）

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

真田先生は、一瞬びっくりしたように『お母さん、ここにずっといたのですか』『ハイ、ずっと聞いていました』、私は先生に対し、お礼を言おうとしたのですが、涙がポロポロこぼれるばかりでした。『お母さん、あと少し時間をいただけますか？彼にトレーニングをさせたいのです。サイドステップなどをやらせるので、ヒデキはまた泣いてしまうかもしれませんが、よろしくお願いします』そして腕立て伏せ、腹筋、サイドステップ。次々とトレーニングが始まりました。静かな夜の柔道場に響く3人の掛け声。真田先生、金井先生のお二人が、ヒデキと一緒にやっている姿に、私はただ・胸がつまりました。約50分間ヒデキのためにトレーニングをして下さったのです。そして、7時過ぎに柔道場を出て来たヒデキは、スッキリしたような、さわやかな笑顔に変わっていました。『ヒデキ、柔道やめるんだっけ？』『うん、やめない』と言いました。

母の話はさらに続く。「真田先生は小学生を筆頭に4人の息子さんのお父さんです。あとで聞いた話ですが、この日、息子さんの1人が鉄棒の逆上がりが出来ようになったお祝いに、夕食は家族と外食することになっていたと……。その息子さんがとても楽しみにしていたとか。金井先生は、その日、体調が悪く、真田先生に帰るように促されていたようですが、『大丈夫です』と最後まで一緒にトレーニングをして下さったそうです。『二人の先生がヒデキのために貴重な時間を下さったんだ。贅沢なトレーニングだったね!!感謝しなくちゃいけないよね』と私はヒデキに心から言ったのです。帰ってみると、柔道部の仲間からヒデキのケイタイに励ましと心配のメールがたくさん入っていたとのことでした。現在、良い先生と仲間にも恵まれたヒデキは少しずつ成長させてもらっています。会長ありがとう

ございます。」と目を真っ赤にしなから、私に語ってくれたのです。私はお母さんの話を聞きながら、真田君と金井君の指導を心より、うれしく思った。

確かに真田君の指導は半端ではない。徹底しているのだ。他の指導者であつたら見過ごしてしまうことを、彼は見過ごさない。その厳しさは生徒にとっては、大変に怖い存在なのである。ヒデキ君は半年前に目の手術をしている。手術前に母が心配して聞く。「お前、目の手術は怖いだろう？」その返事がおもしろい。「真田先生以外は怖くない」と答えたという。指導者は厳しさの心の底にあたたかい愛情と理念がなければならぬと思う。

私は卒業生の何人かに聞いたことがある。「真田先生は怠けたりすると『出て行け邪魔になる』と叱咤された。大変に厳しい人であつたが言っていることは常に正しかった。なぜ自分が怒っているのか。その理由を納得するまで話してくれた。また、自分の意見を生徒の目線で聞いてくれた」と。また「厳しく怒られることによって、生きる上で大切なことに気付かされた」と。ある生徒は「人生のアドバイスもしてくれた。だから、どんなに厳しくされても頑張ることができた」と言う。

先生と生徒の関係は、信頼の二字につきる。先生は生徒の成長のために、全力を尽くし、生徒は先生の想いに力いっぱい応えようとする。そこに大きな花が咲くのだ。その陰には、先生に対する親の理解と支えが絶対必要になってくるのではあるまいか。



左から、真田先生、ヒデキ君、金井先生